



野田小学校 学校だより

南風の丘から

学校づくりのモットー
明るく楽しく美しく

校長 大嶋博之

私の未来を創る

先日、全児童に厚いファイルを配布しました。そのファイルは、各担任が考えた表紙をつけて一人ひとりの名前を印刷した「キャリア・ポートフォリオ」です。

ポートフォリオとは、もともと「紙ばさみ」のことを言います。キャリア・ポートフォリオは、将来の夢や希望を実現する道筋(キャリア形成)と言います。に関わる様々な取組の成果(発表資料、メモ、写真、記録など)を保存して、定期的にふり返りながら、「未来の自分に今何が必要か」を考えて、毎日を充実させていくためのものです。

「小学生に『進路指導』なんて…」と言われる方がいらつしやるかもしれません。何事も「実現」するためには、それなりに構想と準備が必要です。(高校生のお子さんをお持ちの方は、実感があられるかと…)ましてや「予測が難しい社会」を生きるこの子らにとつて「自分で考える」ことや「強みを生かして力をつける」ことなどが重要になります。

『人生は日々の積み重ね』で成ります。このポートフォリオに折々の記録や記憶を挟み込みながら、未来への想いを積み重ねさせていきたいと思えます。



一人一台ずつ

パソコンを配った

真のねらい

パソコンを全国の児童生徒に配布しましたが、そのねらいについては、次のように示されています。



Society 5.0 時代を生きる全ての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びを実現するためには、学校現場におけるICTの積極的な活用が不可欠との観点から「GIGA スクール構想」を推進している。(文科省通知から)

右の文中で大事なものは、次の二つです。

「個別最適な学び」

「協働的な学び」

一つ目の「個別最適な学び」は「能力に応じて」ということだけでなく、上段の「キャリア形成」に強く関連して、自分に必要なものを選び学び取るというイメージを持っていきます。「協働的な学び」は、他の人と意見を交わしたり、練り上げたりして、自分の考えや知見等を深めることをねらいとしています。よつてこの二つは別々のものではなく、異業種交流のように二つをからめて新しいものを創り出すような学びを実現することが求められていると捉えています。

《 主な行事予定 》

<10月>

- 15日(金)…第50回記念普賢岳登山
- 26日(火)…2年生授業参観・学級部会

<11月>

- 1日(月)…個人面談~11月10日
- 9日(火)…6年生修学旅行(加小と合同)~11月10日
- 18日(木)…学習発表会(5・6校時)
- 22日(月)…人権教育月間~12月10日
- 30日(火)…人権集会

<12月>

- 2日(木)…持久走大会、学級懇談会

《コラム あかね雲》

ウコッケイは、

SDG、Sだ!

ここ数カ月、書籍やYoutubeでウコッケイの育て方を勉強して、次の事が分かりました。

- ・水(雨)を浴びてはいけないこと。
 - ・コンクリート床はストレスがたまること。
 - ・「砂浴び」ができる環境が必要なこと。
 - ・ミネラル(牡蠣殻など)が必要なこと。
 - ・止まり木などの高い場所が必要なこと。
 - ・雑草を食べてくれること。
 - ・発酵土や枯葉で糞が匂わなくなること。
- (この土は肥料になる!)

そして、一番の発見が「ウコッケイによって自然界が循環する!」ということです。うーん…、ウコッケイは、奥が深い!



《心に響いた言葉》 「クークック~、クークック~」

大好物の白菜を見せたときのウコッケイの声から。ずいぶん鳴き声の区別がつくようになりました。



シリーズ「令和の日本型教育」とはなんぞや？

〈第五回〉

「義務教育を

全ての児童生徒等に実質的に保障するための方策」について

今回は、不登校や義務教育を受けることができなかった人達への対応です。野田小では幸いにも長期の不登校の児童はいませんが、全国的には次のような状況にあります。

小中学校における不登校児童生徒数は平成24年度以降増加にあり、平成30年度には十六万四千五百二十八人、このうち90日以上欠席児童生徒は九万五千六百三十五人で、不登校数の約6割を占める。
(文科省資料から)

一方、義務教育を受けられなかった人たちの内訳は、戦後の混乱期に学校に通えなかった人や、不登校で中学校を卒業しなかったり、学校に通えないまま卒業したりした人など様々です。平成二十九年時点で、全国三十四の夜間中学校に約千六百人が通っています。

前述の二つのことは、義務教育として由々しき問題であり、夜間中学校を増設するなど対策が強化されているところです。私たちは、この現実(格差社会など)を見つめながらよりよい教育環境づくりを進めていかなければならないと思います。

情報

さて、上段の施策は、すべての子どもたちが等しく受けるべき義務教育が受けられない状況に対する(マイナスを±0にする)施策でした。一方、「令和の日本型教育」では、「**発展的な学習**」や「**キャリア教育**」の充実など、それぞれの子どもたちが持つ資質や能力等を十分に広げ、伸ばす教育が求められています。このことを充実するために、どうしても情報が少ない地方の学校にいる私達は、次の事を充実させなければならぬと考えています。

学校の情報提供力を高める。

例えば、子どもたちが自身の将来を考えて、

- 「先生、高校にはどんな種類がありますか。」
- 「先生、大学ってどうやって行けますか。」
- 「先生、これから伸びる仕事って何ですか。」
- 「先生、ピカソのすばらしさって何ですか。」
- 「先生、ノーベル賞を取った真鍋さんは、何がよかったですか。」

「先生、SDGSって私に関係ありますか。」
こんなことに答えられる(答えられなくても共に調べる)学校でありたいと考えています。

そのためには、まずは教師が知見を広げ、世の中のことを

考えることが必要だと、強く思っています。



ふるさとの文化・歴史・人物——野田小教育の視点から

「普賢岳登山」

野田小学校の普賢岳登山、今年は、五十回の記念登山となります。学校と保護者と地域の方々、そして、子どもたちと半世紀の間、受け継がれてきました。その価値を挙げれば、

- ・ふるさとを心に刻む。
- ・体を鍛える意義を再評価する。
- ・励まし合ってゴールに到達する体験を積む。
- ・山の頂上に立つという経験を積む。
- ・ジオパークを歩く(知る)。

そして何よりも年配の経験者の方々と話しをしていて感じるのは、「地域が一体となる」ことです。普賢岳登山というだけで共通の話ができて、みんな笑顔になります。こんな一体感はないかなか得ることはできません。

来る十月十五日(金)、五十年目の歴史を刻みながら、普賢岳頂上へ、行つてきまーす！



【お知らせ】普賢岳登山へ向けて

登山では、以下の準備を。

- ・足の爪を切っておく。
- ・小まめに水分と捕食を。
- ・気温差があるので着替えの準備を。
- ・いざというときは携帯電話で連絡を。

楽しむために、しっかりとした準備をお願いします。

